# 図書館通信 №26

白浜町立図書館協議会 令和7年10月1日発行

## みんなが気になる図書館の









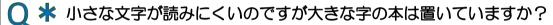
○ \* 白浜町に図書館はいくつありますか?

▲ 4館です。(本館、白浜・富田・日置分室)

本館:子ども向け・郷土資料・雑誌・DVD

△ ★ 白浜分室:大人向け・雑誌・DVD

富田・日置分室:子ども・大人向け・雑誌



★ 大活字の本があります。小説や随筆が多いです。 新刊もそろっています。

○ ★ 読みたい本があるのですが、本のリクエスト予約はできますか?

▲ 貸出中の本は返却されたらご連絡します。ない本は県立図書館・ 近隣の図書館でさがします。購入できる場合もあります。

↑ ※ 図書館を一言で言うと?

▲ 「本棚に眠る宝石箱」。魅力いっぱいの本があなたを持っています!



### ▶ 図書館情報 ▶



「(人が)くる(リサイ)クル文庫」という意味で、皆様がご自由にお持ちいただ ける本(リサイクル本)を下記施設に設置しています。ぜひご利用ください。

はまゆう病院受付ロビー・JR白浜駅待合室・ 平草原公園事務所・白浜町立児童館・ 椿出張所・白浜町立住民交流センター・ 白浜町役場介護保険係受付・養護老人ホーム椿園















## "私の思い出の一冊"



「悲劇の少女アンネ」~「恐怖」と「生きることの尊さ」~

『悲劇の少女アンネ』 シュナーベル/著 偕成社 白浜町教育委員会 教育長 西田 拓大

皆さんは、どんな時に本を読みますか。

読みたい本がある時、学校での読書の時間、心を穏やかにしたい時、暇つぶし、あるいは情報や学びを得たい時など、さまざまだと思います。

私は幼い頃、体が弱く、寝込むことが多くありました。さらに父の転勤で小学校を転々とし、親しい友人もほとんどいませんでした。そんな時、病気で寝込む私の枕元には、母が必ず本を置いてくれました。体調が少し良くなると、その本を読むのが楽しみでした。

その中で今も心に深く刻まれているのが 『悲劇の少女アンネ』です。

この本は、13歳――まさに中学生の年齢であったアンネ・フランクが、自らの思いを明いを日記につづった言葉をもとにしています。アンネは第二次世界大戦、で、サス・ドイツの占領下にあるオランダで、タイプにあるオランダで、早く戦争がられながら、ないました。はれるのを願い、暮らしていました。けれどもその希望は、密告によって断たれ、ゲシュタポに捕らえられ、若き命は絶たれることなりました。

この本を通して、私は二つのことを強く 感じました。

一つは「恐怖」です。生まれの違いだけ で差別され、苦しめられ、命を奪われる。 それがどれほど恐ろしいことかを実感しま した。

もう一つは「生きることの尊さ」です。 絶望的な状況にあっても、恋をし、自然の 美しさを語り、生き抜こうとしたアンネの 姿に、強い生命力を感じました。

私が幼い頃、原爆投下の日や終戦の日には、家族で平和記念式典を見ながら黙祷をするのが習慣でした。特に強制されたわけではありませんが、自然と身についていました。その影響か、教師になってからも、教育長となった今も、「平和」が最も大切な学びだと考えています。

「人を殺すな。差別をするな。困ってい る人にはすぐに手を差し伸べよ。」

これは、私が義父からいただいた言葉で す。これからも、この言葉を大切に守って いきたいと思います。

アンネの日記は、そういう私の思いの原 点になった本です。そして、この本と出会 った機会を作ってくれた母に感謝していま す。

#### 白浜町立図書館は、本館と3分室あります。

\*本館(グルメシティ白浜店様横)子どもの本が中心電話43-2922

\*白浜分室(中央公民館2階)大人の本が中心電話42-4564

\*富田分室(農業研修会館 1階)子どもの本も大人の本も 電話45-0048

\*日置分室(日置川拠点公民館 1階)子どもの本も大人の本も 電話52-2660